

2018（平成30）年度 大阪大学 文学部 入試問題 第1問 解答例

I

問一

(1) 取捨 (2) 繁華街 (3) 端的 (4) 乾電池 (5) 絵空事

問二

目の前のあるものごとを主体が自身のもつ概念を用いて言葉で言い表わすとき、そのものごとを描写する表現は、描写の主体がそのものごとに対してどのような関心を、どの程度強くもっているかに依存して、さまざまな仕方で行われうるという意味。

問三

ものごとが記述される時、記述する主体の関心とその程度に依存して、記述それぞれに特有の典型的な物語が開示され、ものごとはその物語の内に位置づけられることで、各記述に応じた知覚のされかたをするという意味。

問四

人間の経験において、関心と記述に応じて知覚されるものごとの相貌は異なり、たとえば、どこから見られようと坂それ自体は上りとも下りとも限定できないが、坂を見る主体の物語が坂を上るものであるとき、はじめて「上り坂」として知覚されるという意味。

問五

前者は、対象が存在しないために対象の知覚も存在しないということの単なる報告であるのに対して、後者は、対象が存在しないことに積極的な意味のある物語が開かれ、対象が不在の相貌のもとに、そこに存在する他の対象が知覚されている。